

行政視察報告書

参加議員	木下靖、工藤健、奈良祥孝、竹山美虎
調査期間	令和7年4月22日（火）～令和7年4月24日（木）
調査先 及び 調査事項	① 徳島県徳島市「まちづくり協働プラザ」 ② 香川県高松市「中心市街地活性化基本計画」

視 察 概 要
■ 調査先① 徳島県徳島市
■ 調査事項 「まちづくり協働プラザ」
■ 調査内容 調査日：令和7年4月23日（水） ●はじめに、徳島市市民文化部市民協働課の阿部係長から「市民協働によるまちづくり」について説明を受ける。 1. 市民協働、公民連携事業の推進（公民連携の具体的事例） 2. 徳島市における市民協働の経緯（市民活動団体の育成支援の成果及び協働提案事業の実績） 3. まちづくり協働プラザとの連携（根拠条例の改正、相談件数及び協働事業の取組状況、推進事業の具体例） ※徳島市と市民活動団体とファンド企業をマッチングさせている事例は特筆すべき事業である。 ●続いて、徳島市まちづくり協働プラザの岸田マネージャーから「良い協働とやばい協働」について説明を受けた。 1. 行政が協働を必要とする背景 2. 協働の定義 3. 協働の具体的事例 4. 協働への5ステップ（多様な主体とのつながり・連携、ワークショップ、ニーズ調査、モデル事業、「しくみ化」） 5. ロジックモデル ※個人的見解であるが、岸田マネージャーの知識と経験と腕に頼るところが大である。今後とも持続可能な「しくみ」づくりと、特に岸田マネージャーの後継の人材育成が課題であると感じた。

視 察 概 要

■ 調査先② 香川県高松市

■ 調査事項「中心市街地活性化基本計画」

■ 調査内容

調査日：令和 7 年 4 月 2 4 日（木）

調査先対応：高松市役所都市整備局都市計画課住宅・まちづくり推進室

調査内容報告：

高松市人口：407,498 人

1. 第 3 期中心市街地活性化基本計画までの実施状況

計画年度は令和元年度～令和 6 年度末

目標指標と実績	目標値 (R6)	実績値 (R5)	達成状況
「中心市街地内の主要観光 施設年間入込客数」	2,890 千人	2,022 千人	未達成
「歩行者通行量」	97,721 人	122,935 人	達成
「新規出店数」	271 店舗	186 店舗	未達成
「中心市街地の社会動態」	1,371 人	848 人	未達成
※居住人口の増減			

2. 地域住民のニーズ把握

- ・中心市街地を訪れない理由…「駐車料金が高い」「駐車場がない・狭い」「1 カ所で用事が済まない」
- ・中心市街地を訪れる機会を増やすためには…「クーポンなど得する情報発信」「商店街や店舗のホームページの充実」「お祭りやイベント等の開催」など。
- ・中心市街地に期待すること…「訪れて楽しめる場」「身近な買い物の場」「イベントや行事など地域のにぎわいづくりの中心」「子育てや高齢者の生活をサポートする場」など。

3. 中心市街地活性化の課題

- 1) インバウンドを含む広域圏からの誘客力を高めていく取組
- 2) 回遊・滞在できる環境整備により利便性を高めていく取組
- 3) 来訪者だけでなくまちなか居住者の居心地
- 4) 官民共創モデル及び情報発信を支えるデータ連携基盤の活用

4. 第 4 期中心市街地活性化基本計画

計画期間：令和 7 年 4 月～令和 12 年 3 月

計画対象：中心市街地は、平成 30 年策定の立地適正化計画に定める広域都市機能誘導区域内、高松駅や高松港のあるサンポート高松及び中央通り沿いに集積する高次都市サービス機能を有する施設を含む約 250ha の区域。

目指す中心市街地の都市像：

第3期計画の「誘客力」「回遊性」「地域価値」により持続的に成長する共創型まちづくりに取り組む。

基本方針1：もっと魅力を高めることで、みんなが訪れたいくなる街を実現する。

目標指標「中心市街地内の宿泊数」880千人/年(R5)⇒目標値961千人/年

主要事業「瀬戸内国際芸術祭」「香川県立アリーナ管理事業」他

基本方針2：もっと利便性を高めることで、みんなが回遊・滞在できる街を実現する。

目標指標「歩行者通行量」122,935人/日(R6)⇒目標値125,739人/日

主要事業「中央公園再整備事業」「高松市創業支援等事業」他

基本方針3：もっと居心地をよくすることで、みんなが住みたくなる街を実現する。

目標指標「中心市街地の社会動態」960人(R1～R5)⇒1,004人(R7～R11)

主要事業「移住・定住促進事業」「逃げ遅れゼロ事業」「フラット35活用事業」他

基本方針4：官民共創・データ連携の強化により、これからも持続的に成長する街を実現する。

目標指標「データ連携基盤を活用した事業数」5件(R5)⇒10件(R11)

主要事業「サンポート FACT プロジェクト(エリアマネジメント)」他

5. まとめ

高松市の視察は2011年1月以来2度目。当時は第1期中心市街地活性化基本計画中で、丸亀町商店街は100年後の都市を考えた再開発に取り組み、定期借地による所有と利用の分割のスキームづくりとタウンマネジメントやオーナー変動地代家賃制など、未来に視線を置いた管理・運営方式を行っていたが、現在も継続的発展的に進んでいる。

当時、商店街のセンタードームに開店したロレックス、ティファニー、グッチ、ルイヴィトンなどの高級店舗の存続を気にかけていたが、現在もそのまま営業を続けており、さらに、街区を増やしての再開発を進め、多くの来街者で賑わっている現状に驚いた。それでも再開発計画の5割が終了したばかりという。

同時にサンポートと呼ばれる港湾エリアのエリアマネジメントによる県の再開発や環境整備が進み、高松駅付近に他都市から徳島文理大学香川キャンパスも移転してくるなど、中心市街地活性化計画とともに市役所を中心とした半径2kmの立地適正化計画の都市機能誘導区域と見事にシンクロしている。

歩行者通行量とともに居住者人口を増やし、さらに国内観光やインバウンド対応によるデータを活かした共創のまちづくりは、青森市にとっても参考となる。